

人物白書

vol. 21

すえまつ あや
氏名 末松 綾
 所属部署 **営業1部 東京営業所**
 担当エリア **神奈川県**

お客さまに言われて嬉しかった一言

“ **ほんと面白いよね!** ”

いえいえそんな…
 いたって真面目なだけなのですが…

【座右の銘】
**生きてるだけで
 ネタだらけ!**

生きてると本当に色んなことが起こりますね。
 ただただ真面目に働ましやかに
 生きているつもりなのですが…

【出身地】
福岡県北九州市

【趣味】
**ゴルフ・旅・美酒・
 美食・美〇**

【好きなもの】
パンダ

【嫌いなもの】
きゅうり

【長所・ウリ】
見た目と中身が違うこと



Message

お客さまへのメッセージ
 何かのきっかけやご縁で
 いつの日かお会いできることを
 楽しみにしています!



お客さまとJPRをつなぐ情報誌

JPR

リターナブル容器の一元管理で
 効率化や業務改善を実現

FOCUS

商品・サービスインフォメーション

21 気化式冷風機 RKF406

打ち水の原理で **エコ&クール**

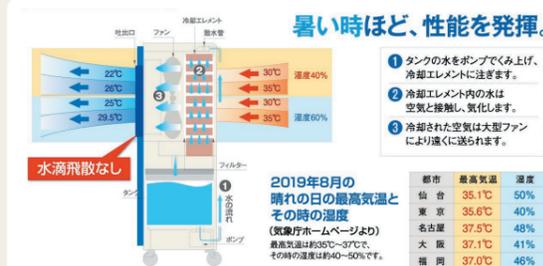


左右・上下への
 オートスイング機能付き!

選べる風量3段階

キャスター付きで
 移動ラクラク

涼風の仕組み



column スポットクーラーとは別次元のやさしい涼しさ

作業効率の低下だけでなく、熱中症の危険をも招く夏の暑さ。現場の対策としてよく使用されるスポットクーラーは、強力な冷却性能が魅力的な反面、「排熱の処理が必要」「冷やせる範囲が限定的」「冷えすぎてしまうことがある」といった欠点もありました。打ち水の原理を用いた気化式冷風機なら、こういった心配はご無用。冷風は外気温と湿度によって調整されるため、長時間風に当たっても冷えすぎることがありません。また、消費電力もスポットクーラーと比べ大幅に少ないため、現場環境と経済性の両面での改善が期待できます。皆さまの現場の状況に合った最適な選択をしていただけるよう、JPRでは気化式冷風機とスポットクーラーを、レンタルと販売の双方で取りそろえております。夏前に売り切れたこともある人気商品です。酷暑の予報が出る前に、お早めのご注文をオススメします!

商品の詳細はこちらから



海外向け「リターナブル容器」の一元管理で

効率化や業務改善を実現



KOMATSU

コマツ物流株式会社



建設・鉱山機械の世界的メーカーであるコマツグループ。その物流を担うコマツ物流株式会社（以下、コマツ物流）は、部品の供給を行う際に使う自社物流容器の管理にクラウド型個体管理システム「Logiarx（ロジアークス）」を導入し、物流の効率化を図っている。コマツ物流全社に活用が広がるLogiarxについて、主に海外拠点との物流をコントロールする石田さま、高橋さま、土谷さまにお話を伺った。

付加価値の高い物流サービスの提供

コマツ物流は、重量物を中心とした運輸事業や入庫から保管・梱包・出荷まで一貫して行う物流センター事業、コマツの海外工場に部品を供給する3PL事業をトータルに行い、付加価値の高い物流サービスを提供することで、コマツグループのサプライチェーンの最適化を図っている。コマツの各工場にもコマツ物流の拠点があり、新システム導入や設備レイアウト変更といった物流の効率化を目的とした改善業務も積極的に行っている。石田直哉さんは「3年前に物流技術部を立ち上げ、物流に特化した新技術に取り組んでいます。各工場の生産技術部門と連携して自律型のAGV（無人搬送車）の導入や自動フォークリフトの計画を進めていて、2020年度の課題として画像認

識の技術を各工場に展開するために精度や有効性などを検証しています」という。

約9万枚のリターナブル容器を一元管理

世界に85の生産拠点を持ち、グローバルに事業を展開しているコマツグループ。建設機械の部品の形状や大きさは多種多様で、それらを運ぶリターナブル容器は200種類に及ぶ。2015年に、その管理にクラウド型個体管理システム「Logiarx（ロジアークス）」を導入した。「私たちの管轄する部門だけで約9万枚の金属製リターナブル容器を管理しています。在庫状況を見える化することで容器を効率的に動かせるようになりました。今では、国内の全拠点でも利用が広がっています」と高橋洋治さんはいう。

クラウド型システムのアドバンテージ

2014年以前に利用していた管理システムは自社サーバー内に設置するタイプだったため、サーバーのOS更新に伴い再構築が必要となった。「数社の候補を検討しましたが、他社のシステムは全部サーバー設置型で、クラウド型の『Logiarx』が非常に魅力的でした。初期投資が安く、きちんとしたセキュリティ対応も採用の決め手になりました」と土谷浩一さんは当時を振り返る。旧システムではRFIDで個体管理をしていたが、すべての容器を管理するために単価の安いQRコードを使うことになった。「基本はQRコードですが、インドなど海外拠点ではRFIDを使っています。現地の従業員が楽にデータを読み取りできるので重宝していますが、RFIDはまだコストが高いため、コストとの balan

スを見つ、RFIDの有用性を確かめているところですよ」と高橋さん。

ムダな買い足しを抑制し、KPI評価にも活用

コマツ物流では、Logiarxのデータを容器運用の効率化に役立てている。「海外からのオーダーや発注計画から容器需要の見込みが立ちます。ショートする予測がでると余剰のある海外拠点に空き容器の返却を呼びかけます」と高橋さん。海外とのやり取りでは半年先までの予測をしないと効率的な運用ができないという。予測により、適切に容器の運用ができるようになり、木箱やスチールコンテナなどワンウェイの物流容器を買い増すことが減り、コスト削減に貢献している。

コマツ物流では、いかに物流容器を効率的に使っているかをKPI化して各拠点のパフォーマンス評価をしている。ここでもKPI目標算出・実績算出にとLogiarxのデータが活用されている。

システム導入は業務を見直す良いきっかけ

Logiarx導入で業務自体も変わりつつあるという。海外の拠点に向けた督促メールに説得力が出てきたからだ。土谷さんは「Logiarxのデータを使うと、必要なデータの集計や解析も短時間でできます。督促メール送付の際にもデータやグラフを添付することで説得力が高まり、仕事がやりやすくなったという担当者の声を聞きます」と語り、「システムの導入は、業務を意識し改善する良いきっかけになります。『Logiarx』は管理ツールですが、それが意識変革につながっている。単なるツール以上の価値があります」と石田さんも評価する。最近では、国内の

工場間で輸送に使われている容器の管理をするなど、Logiarxの活用が広がる。

正確なインボイス発行にも活用

Logiarxのデータは、海外からリターナブル容器を戻す時のインボイス作成にも活用されている。200種類の容器の中には品番の似たものがあり、間違えやすいことが課題だった。そこで海外の拠点でインボイスを正確に発行できるように容器の名前の表記や申告価格などにLogiarxのデータを活用できないかと考えた。「JPRさんにアプリを開発していただき、正確なインボイス作成が可能になり、かつ工数も削減できました」と高橋さんは笑顔で語る。

定期的な部品を出荷している北米やブラジル、中国などのアジア、欧州、インド、オーストラリアなど18拠点でもLogiarxの導入が進められている。国内ではハンディターミナル、海外ではiPhoneもしくはiPadを使って読み取りをするなど、現地の従業員が働きやすいような環境を整える。「海外拠点での利用拡大を計画しています。世界各地でLogiarxで円滑な運用をするためにはJPRさんのサポートは欠かせません。これまでも手厚いサポートで助かっていますが、今後も頼りにしています」と石田さん。今後は、海外への展開を継続するとともに物流改革を強化していきたいという。



物流技術部長・物流技術グループ長
石田 直哉 さま



物流技術部／物流改革グループ主幹
高橋 洋治 さま



企画部／企画管理グループ
土谷 浩一 さま